

放射線に関する Q & A

放射線は目に見えません。しかし正しく認識し、対処することで過剰な心配や、無用な被ばくを避けることができます。放射能対策室では定期的に、この Q & A を連載していきます。

監修＝相馬市健康対策
専門部会委員、相馬中
央病院
坪倉正治
作成＝放射能対策室



Q 国は、長期的な目標として「追加」被ばく線量を年間1ミリシーベルトとしています。その根拠を教えてください。

また、年間1ミリシーベルトを超えて被ばくすると、どのような健康影響があるのでしょうか？

A 原発事故が起こる以前から、我々は宇宙や大地からの自然放射線によって外部被ばくし、食物中のカリウムや空気中のラドンなど、自然の放射性物質を摂取することで内部被ばくしています。

合計すると、世界平均で年間約2.4ミリシーベルト、日本平均では年間2.1ミリシーベルトになります。地域によって差があり、アメリカでは平均3ミリシーベルト、ヨーロッパは4～5ミリシーベルトとも言われています。世界中のいくつかの場所では、年間10～20ミリシーベルト（またはそれ以上）の場所も存在し、そのような場所に居住しても、日常生活には何の問題もないことがわかっています。

だからといって、不必要な放射線をいくらでも浴びても良いと言うわけではありません。政府が長期目標としてその達成を目指している、年間の「追加」被ばく線量1ミリシーベルトという数値は、国際放射線防護委員会（ICRP）という国際的組織が、1990年に、今回のような事故の際におきる「追加」被ばく線量の管理目標として設定しました。あくまで目標であり、被ばく量が年間1ミリシーベルトを超えると危険であるとか、こ

こまで被ばくしてもいいとかいう基準では無く、安全と危険の境界線ではありません。我々が元々自然から浴びていた被ばくの数値からわかるとおり、例えば年間2.1ミリシーベルト浴びていた人が、今回の原発事故の影響で年間にさらに1ミリシーベルト浴びることになったとしても、ヨーロッパやアメリカに住むのと大差はありません。

1ミリシーベルトが原因でがんになるなどの体への影響は小さく、喫煙や飲酒、運動不足や野菜不足など他の要因からの影響に完全に隠れてしまうこととなります。

除染に関して言うと、被ばく量が1ミリシーベルト以下になるように行っていますが、これは1ミリシーベルト以上増えると健康被害が出てそこに住めなくなる、という話ではありません。

これまで行われていた被ばく検査からも総じて、市内で生活する上では、外部・内部被ばくによる被ばく量は低い状況にあり、健康への影響を危惧するレベルにはありません。

市は、皆さまの健康管理を目的として、外部被ばく対策として個人積算線量計による外部被ばく量の測定を、内部被ばく対策として、ホールボディカウンター検査による内部被ばく量の測定や自家消費野菜などの放射性物質検査を今年度も継続して実施しますので、皆さまの申し込みをお待ちしています。

出典：▽除染情報プラザホームページ ▽市ホームページ

●問い合わせ先 放射能対策室 ☎ 37-2270

自家消費野菜などの放射性物質測定結果 6月分

▽測定件数 測定件数 61件
(内訳・野菜 23件、果実 25件、魚 2件、山菜・きのこ類 3件、その他 8件)
▽基準値を超えた食品 0件
●相馬市で出荷制限などを受けている食品(7月6日現在)
▽くさそてつ(こごみ)▽たけのこ▽ふきのとう(野生)
▽ぜんまい▽たらの芽(野生)
▽原木しいたけ(露地)▽原木なめこ(露地)▽野生きのこ▽こしあぶら▽うど(野生)
▽牛(県の定める出荷・検査方針に基づくものを除く)
※最新の情報は、福島復興ステーションホームページ内の「農林水産物の緊急時環境放射線モニタリング結果【詳細】」でご確認ください。
<https://www.pref.fukushima.lg.jp/site/portal/non-kekah.html>
◎これまでの食品の検査結果(相馬市ホームページ)
<http://www.city.soma.fukushima.jp/housyasen/index.html>

●問い合わせ先 放射能対策室 (☎ 37 2 2 7 0)